

## 韓国の化石(地学散歩(20))

著者	長島 昭
雑誌名	静岡地学
巻	40
ページ	i-iii
発行年	1979-11-11
出版者	静岡県地学会
URL	<a href="http://doi.org/10.14945/00025599">http://doi.org/10.14945/00025599</a>

# 韓 国 の 化 石

長 島 昭\*

地学散歩 (20)

本年8月14日より24日迄、11日間にわたり日本私学教育研究所主催の地学海外特別研修に参加し、東京学芸大学木村達明教授、韓国慶北大学校師範大学教授梁承榮教授、ソウル大学校自然科学大学鄭昌熙教授の御指導のもとに、下図のようなコースで先カンブリア時代から中新世までの地層(シルル紀、デボン紀、石炭紀前半の地層は韓国にはない)を見学する機会を得た(兼高靖之、本号17ページ参照)。この巡検で採集された植物化石の一部と貝化石を紹介する。

**ネオカラミテス** *Neocalamites carrerei* 忠清南道桃豊炭坑産 シダ植物亜門トクサ(有節)綱大同累層群の藍浦層群、白雲寺礫岩層中の頁岩から産出したものである。古生代の石炭紀から二疊紀にかけて栄えたカラミテス(ろぼく)、現在のトクサと同じ類で、カラミテスより小型で、高さ2~3m茎の太さ5~10cmで、三疊紀からジュラ紀初期の湿地に地下茎を張りめぐらせて大群落をつくった。日本では山口県の大嶺炭田(美禰層群)からも産出する。この化石採集にあたっては地元の教育庁中等係の金孝翼先生が、標高差200m余の急斜面をたどって案内して下さった。

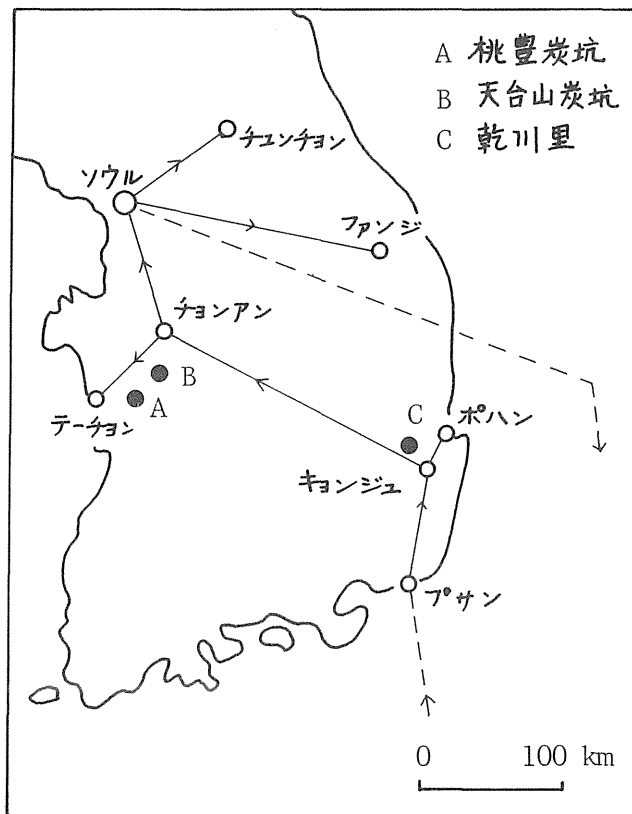
**ポドザミテス** *Podozamites* 忠清南道 天台山炭坑産 裸子植物亜門球果(松柏)綱

大同累層群の藍浦層群の頁岩から産したものである。種子をもった小葉植物で球果綱(マツやスギなど)に属し、日本では手取植物群、美禰植物群の構成メンバーでもある。

**トリゴニオイデス**

*Trigonioides paucisulcatus*

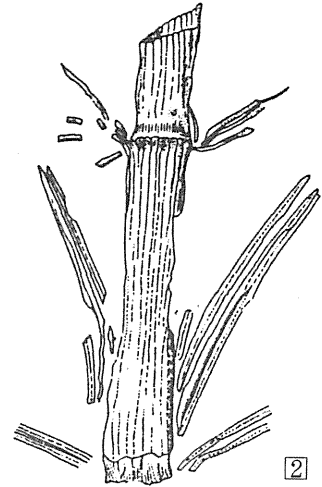
分歯目に属する二枚貝、淡水性。慶尙北道乾川里産 慶尙層群の緑色凝灰質砂岩から産出したもので、日本、朝鮮半島、中国などの白亜系にあって、慶尙動物群の重要な構成員で東アジア特産。東アジアに於ける内陸盆地の発展に対応して、海生のトリゴニアから分化したとされている。



\* 静岡女子商業高校



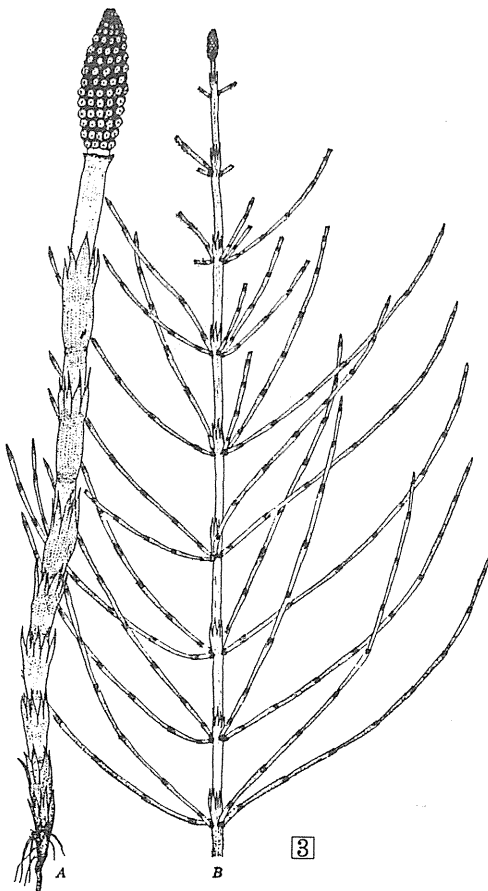
1



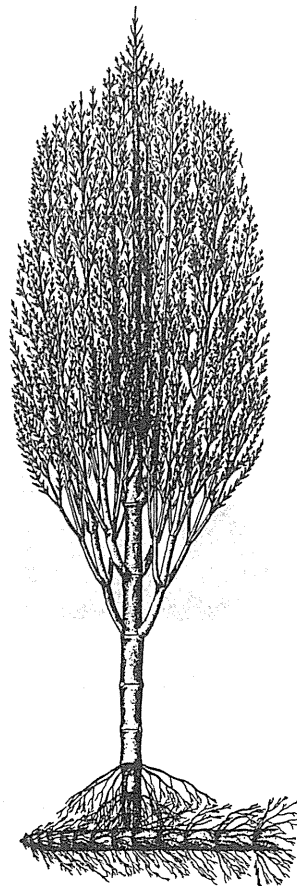
2

### 1.2. ネオカラミテス

現生のトクサの仲間である。節があって、そこから細い葉がでているのがわかる。葉の長さは 30 cm 位ある。



3



4

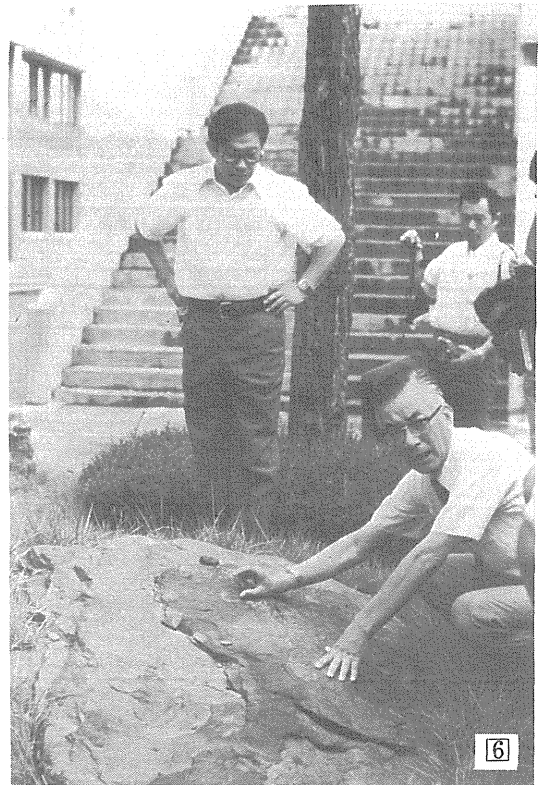
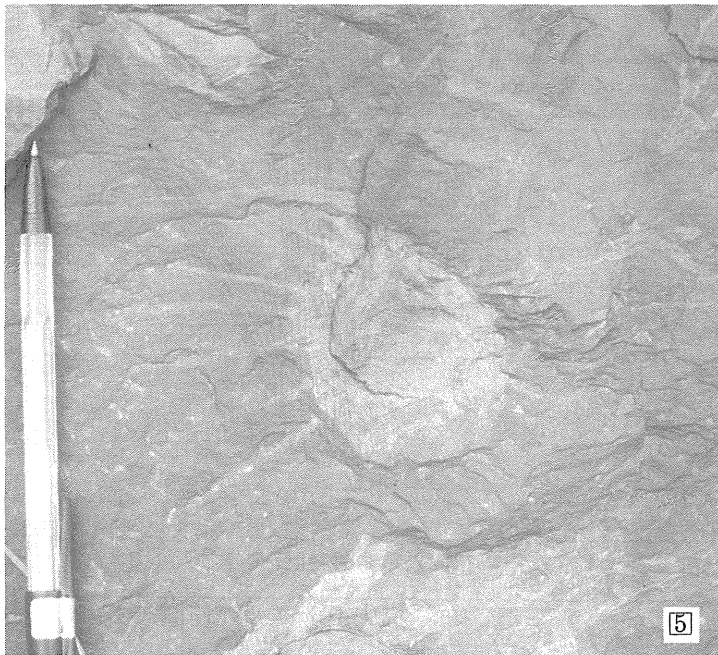
### 3. 現生のトクサ

高さ約 30 cm

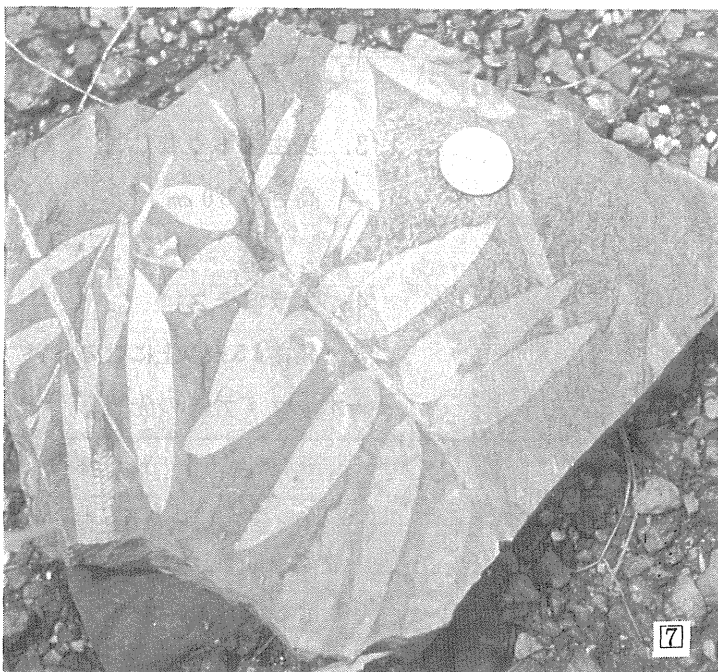
### 4. カラミテス

高さ 15 m 以上になる。ネオカラミテスの先祖。

2. 4. は Hirmer (1927)、  
3. は Smith (1955) による。



5.6.ネオカラミテス（根本の部分）  
ソウル大学校自然科学大学地質学  
教室の前におかれているネオカラ  
ミテスを含む約1 m×1 mの頁岩。  
説明中の木村教授と鄭教授（立っ  
ている人）。桃豊炭坑から運んだも  
のでネオカラミテスの根元が化石  
になっている。地下茎が放射状に  
でて茎の直径は5～6 cmである。



#### 7.ポドザミテス

現生のナギ（マキ科）はポドザミテスから由来したと考えられている  
（丸いものは10ウオンの硬貨で10円硬貨と同じ大きさである。）

#### 8.トリゴニオイデス

非海成白亜系の対比にとって重要である。殻はだ円形、殻頂はほぼ中  
央、放射状肋を有す。

